

## 令和7年（2025年）のアトサヌプリの火山活動

札幌管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しました。

## ○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025年の発表履歴

2025年中変更無し	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

## ○2025年の活動概況

## ・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～4）

監視カメラによる観測では、F1及びF2噴気孔群の噴気の高さは400m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態でした。

7月23日に第一管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測では、アトサヌプリ（硫黄山）付近の噴気等の状況に特段の変化は認められませんでした。

## ・地震及び微動の発生状況（図1-④、図5）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は主にアトサヌプリ（硫黄山）の西側に分布しました。8月16日にアトサヌプリ（硫黄山）の北約2kmで発生したマグニチュード2.2の地震により、弟子屈町サワンチサップで震度2を観測しました。

火山性微動は観測されませんでした。

## ・地殻変動の状況（図6）

GNSS連続観測では、2021年秋頃から2023年頃にかけてアトサヌプリ西側（硫黄山の西方約5km）の深部での膨張を示すと考えられる変化が認められましたが、2025年1月頃以降は、アトサヌプリカルデラを囲む基線で、2020年以前と同様に緩やかな短縮が認められます。

---

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

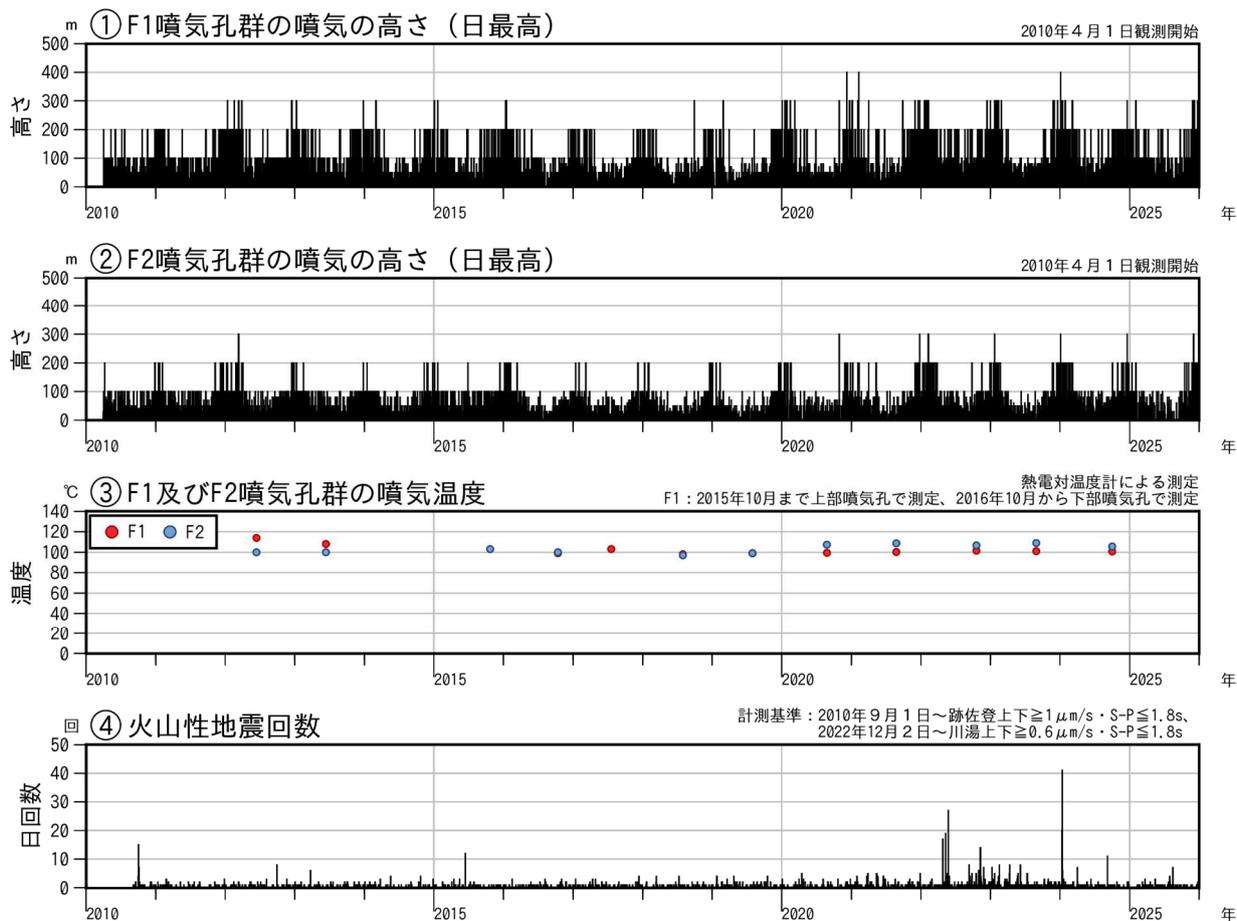


図1 アトサヌプリ 火山活動経過図（2010年4月～2025年12月）



図2 アトサヌプリ 北東側から見たF1及びF2噴気孔群の状況（北東山麓監視カメラによる）

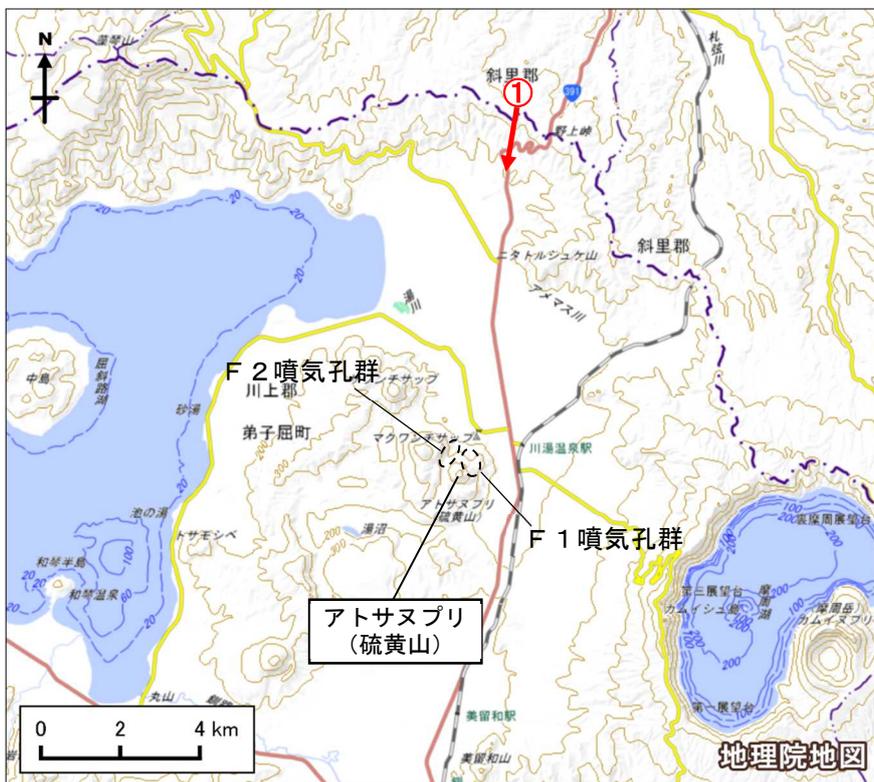


図3 アトサヌプリ 周辺図と写真の撮影方向（矢印）

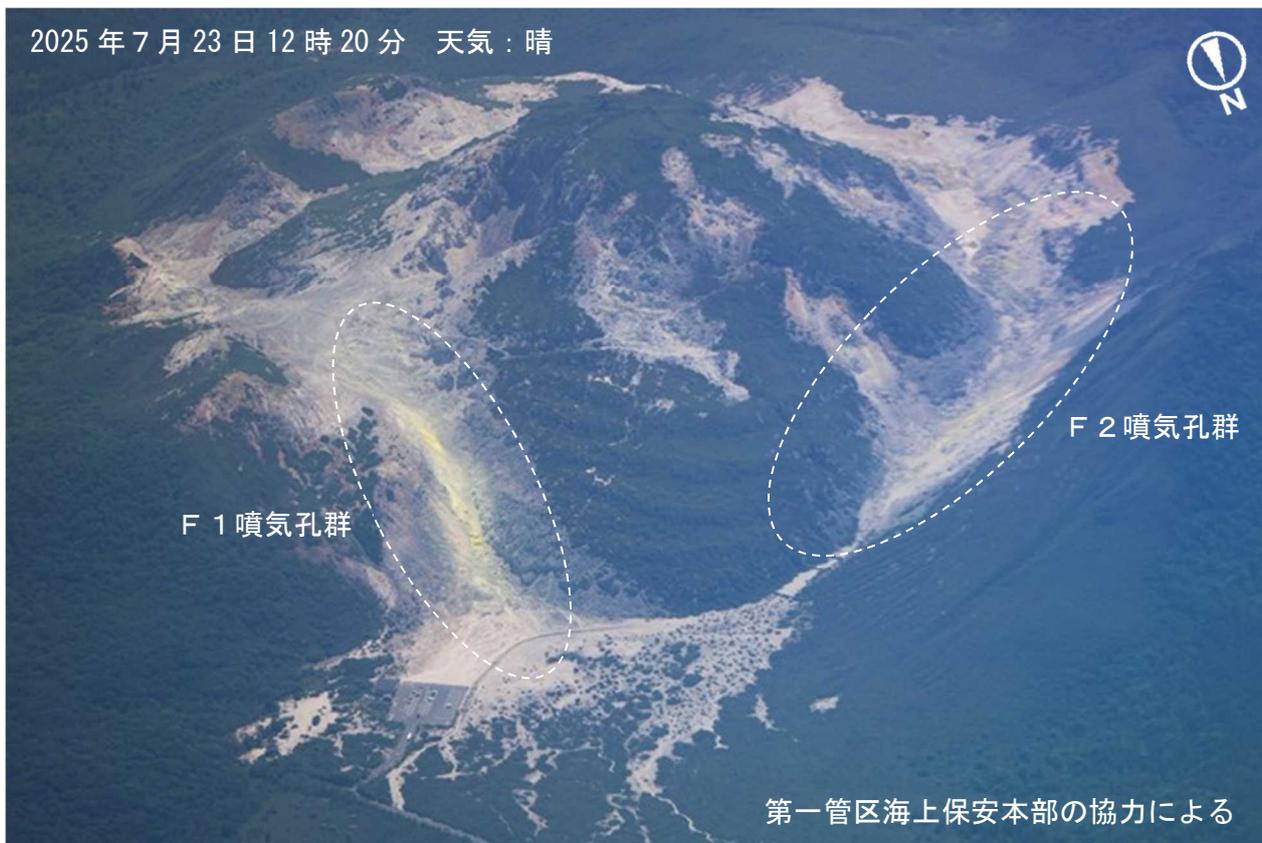


図4 アトサヌプリ アトサヌプリ（硫黄山）溶岩ドーム付近の状況

北側上空（図3の①）から撮影

- ・ F 1 及び F 2 噴気孔群の噴気の状態、溶岩ドーム周辺の地表面の状況に特段の変化は認められませんでした。

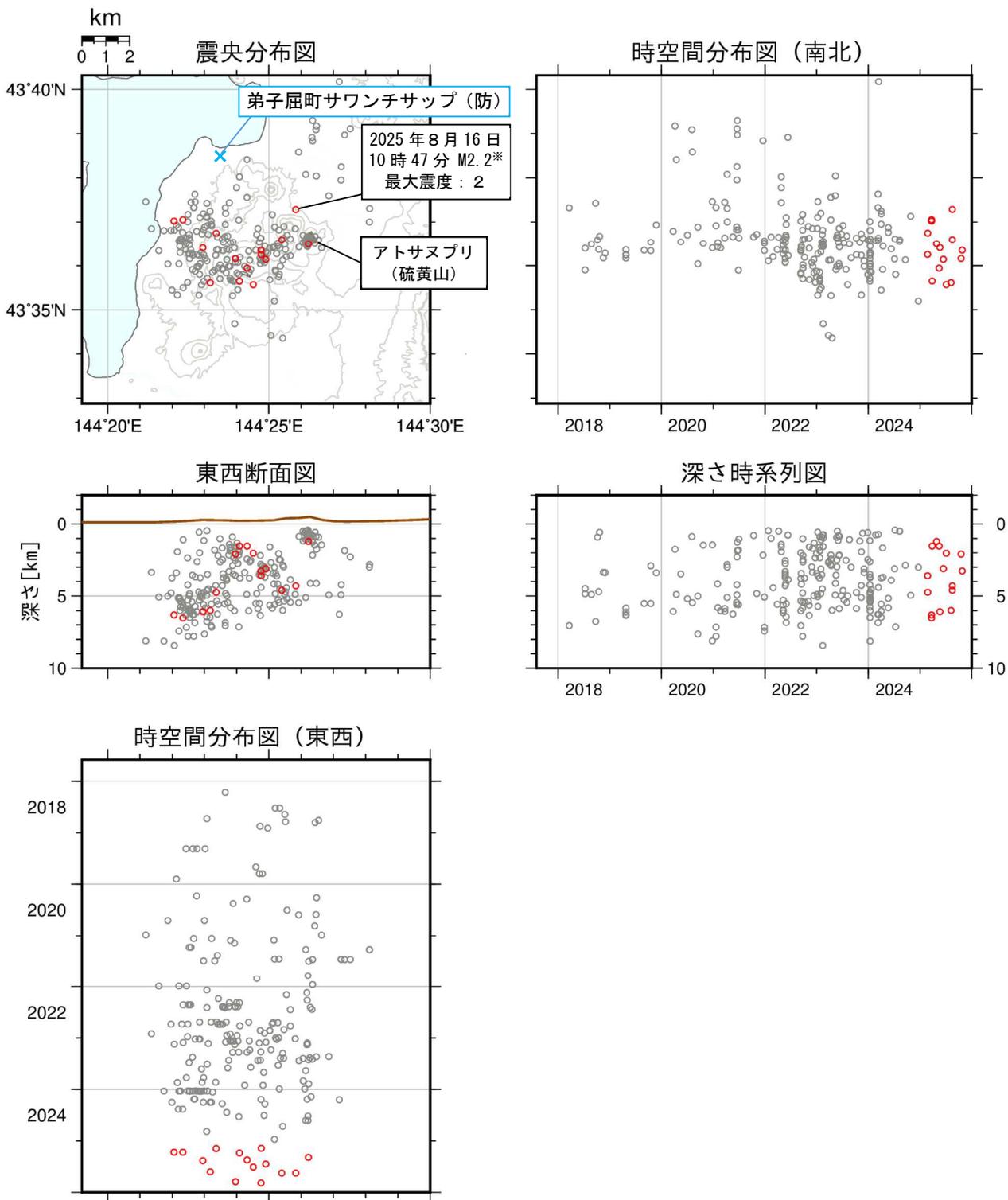


図5 アトサヌプリ 火山性地震の震源分布 (2017年8月～2025年12月)

○ : 2017年8月～2024年12月の震源 ○ : 2025年の震源 × : 震度観測点  
 (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所  
 ※ : マグニチュード (M) は、広域地震観測網による値です。

- ・地震は主にアトサヌプリ (硫黄山) の西側で発生しました。8月16日にアトサヌプリ (硫黄山) の北約2kmで発生したマグニチュード2.2の地震により、弟子屈町サワンチサップ (×) で震度2を観測しました。

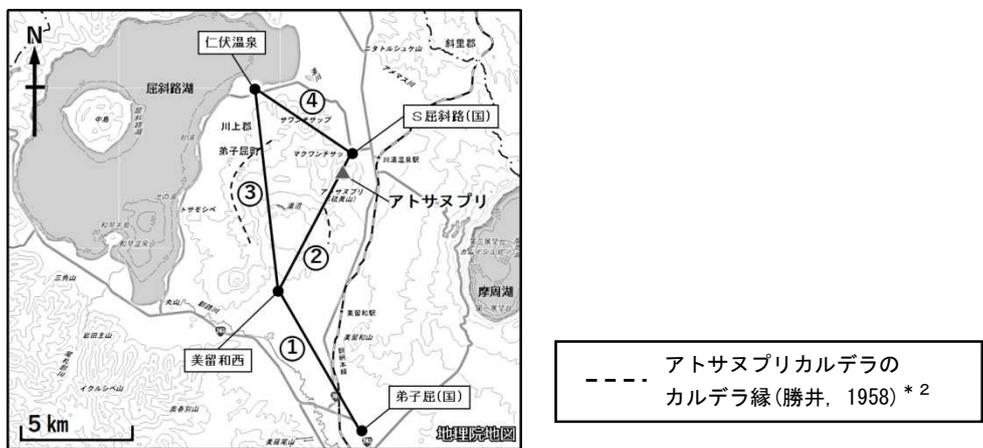
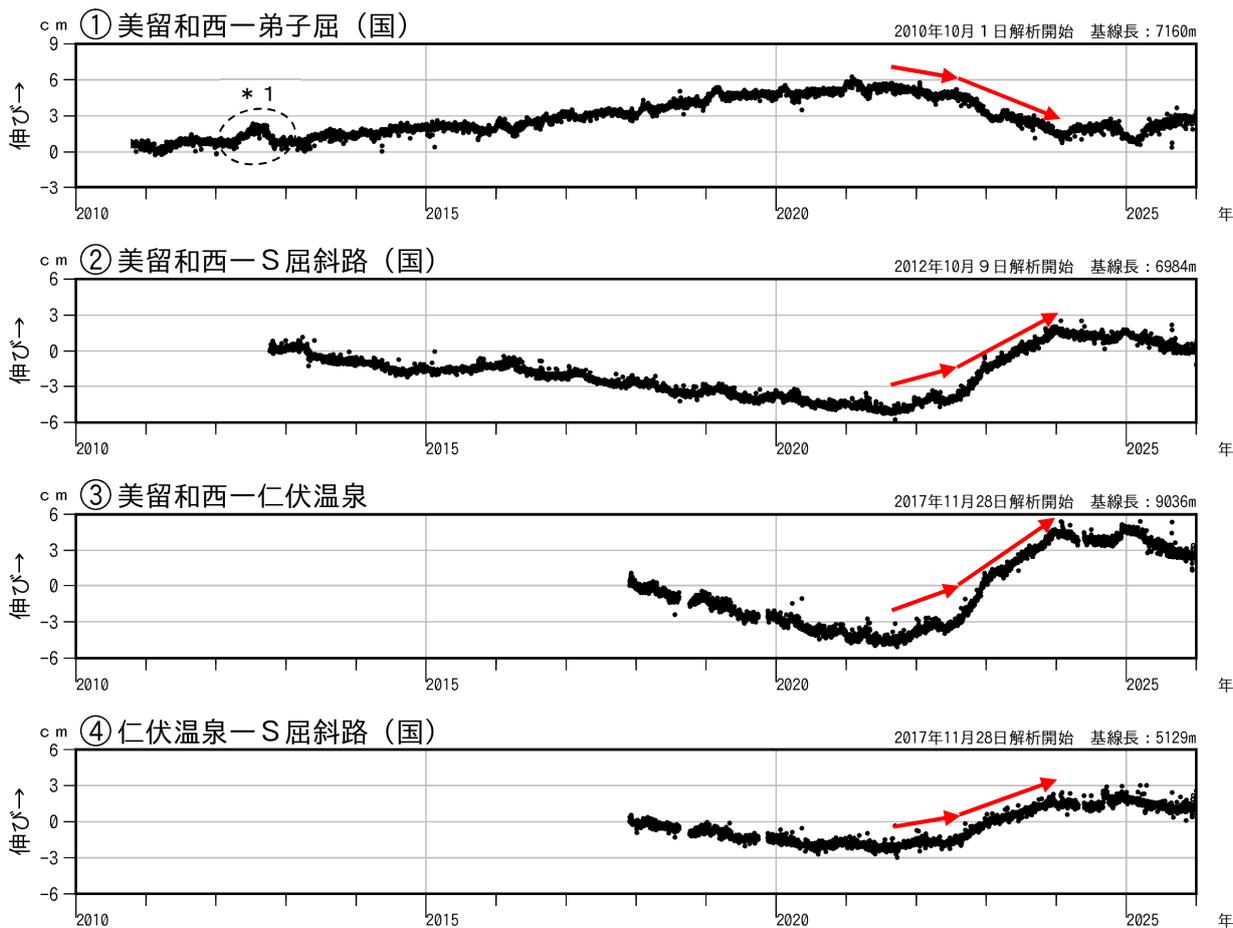


図6 アトサヌプリ GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月~2025年12月)及び観測点配置図  
 冬季に凍上や積雪の影響によると思われる変動がみられる基線があります。  
 ①の破線内の変動(\*1)は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採によるものです。  
 グラフの空白部分は欠測を示します。  
 \*2 勝井義雄(1958)阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。  
 ・2021年秋頃から2023年頃にかけてアトサヌプリ西側深部での膨張を示すと考えられる基線長の変化が認められましたが(赤矢印)、2025年1月頃以降は、アトサヌプリカルデラを囲む基線で、2020年以前と同様に緩やかな短縮が認められます。

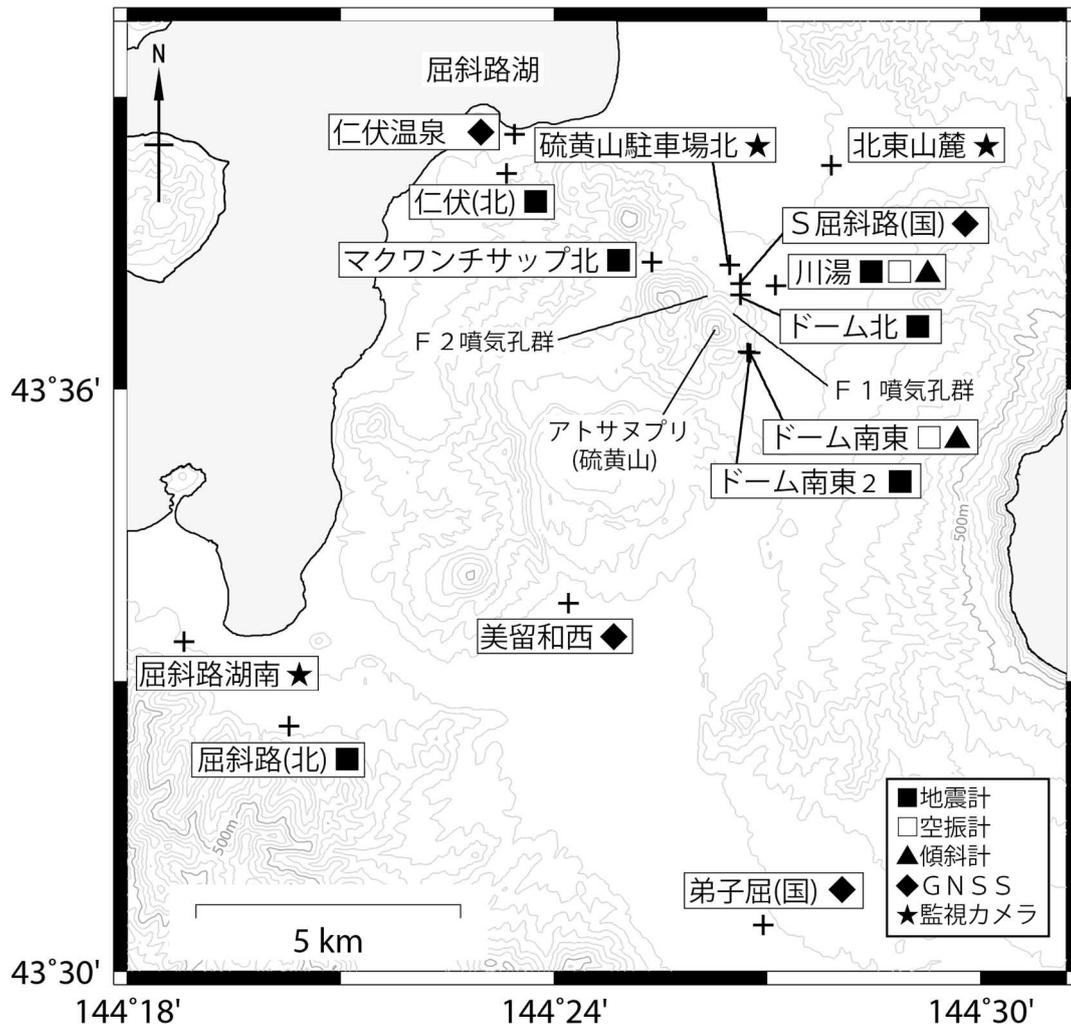


図7 アトサヌプリ 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学

表1 アトサヌプリ 観測点一覧（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）  
記号は図7に対応しています。

記号	測器種類	地点名	位置				観測開始日	備考
			北緯(度分)	東経(度分)	標高(m)	設置高(m)		
■	地震計	ドーム北	43 36.97	144 26.62	219	0	2008年11月21日	
		川湯	43 37.08	144 27.41	158	-97	2022年12月2日	
		マクワンチサップ北	43 37.31	144 25.38	221	-3	2016年12月1日	広帯域地震計
		ドーム南東2	43 36.38	144 26.70	244	-1	2022年10月1日	
□	空振計	川湯	43 37.08	144 27.41	158	3	2022年12月2日	
		ドーム南東	43 36.37	144 26.75	210	3	2018年3月1日	
★	監視カメラ	北東山麓	43 38.21	144 27.95	153	6	2010年4月1日	
		硫黄山駐車場北	43 37.28	144 26.47	165	3	2016年12月1日	可視及び熱映像
		屈斜路湖南	43 33.40	144 18.80	148	5	2019年11月1日	
◆	GNSS	美留和西	43 33.77	144 24.16	138	4	2010年10月1日	
		仁伏温泉	43 38.62	144 23.44	127	5	2018年3月1日	
▲	傾斜計	川湯	43 37.08	144 27.41	158	-97	2022年12月2日	
		ドーム南東	43 36.37	144 26.75	210	-15	2016年12月1日	